

【住宅用】太陽光発電設備に関するアンケートの集計結果について

太陽光発電事業の長期継続に向けた広報・啓発を目的として、県の補助金を利用して住宅用太陽光発電設備を設置した方を対象に、保守点検の実施状況などに関するアンケートを実施しました。

1. 調査概要

- ・調査期間 平成29年11月～12月
- ・調査対象 住宅用太陽光発電設備の設置費に係る県補助金の交付対象者から無作為抽出した1000名
- ・調査方法 アンケート用紙を郵送
- ・回答数 510（回答率51%）

2. 結果概要

保守点検の実施状況について

回答者の6割の方が保守点検の必要性を感じている一方で、実際に保守点検を実施している方は4割に留まりました。

保守点検を実施していない理由では「やり方がわからない」が特に多く、低い実施率の主な要因と考えられます。また、固定価格買取制度の改正により、保守点検の実施が必要になったことを9割近くの方が知らなかったことも影響していると思われます。

不具合やトラブルについて

1割の方は発電設備に関する不具合やトラブルを経験しており、その内容の多くは「パワーコンディショナーなどの機器や配線の故障」でした。また、発見のきっかけは、「発電量の低下に自分で気づいた」が多く、日頃からの発電量の確認が不具合等の発見に繋がっていることが伺えました。

3. 調査結果の見方

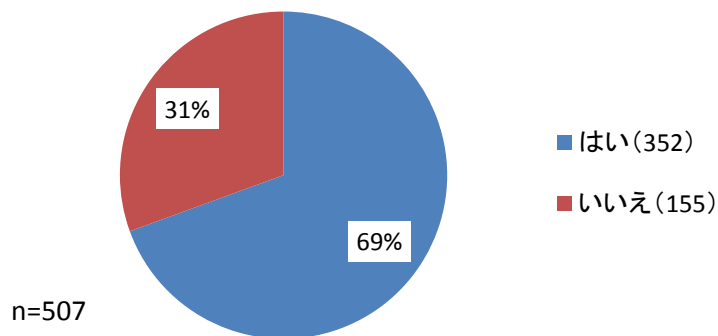
- ・グラフ中の「n」は、その質問の回答者の総数を示しています。
- ・回答比率（%）は、小数点以下を四捨五入したため、比率の合計が100%にならないことがあります。
- ・複数回答により、回答者の総数と回答数の合計が異なる場合があります。

4. 調査結果

発電量の確認について

【質問1】 日頃から発電量の確認をしていますか。(選択式)

7割の方が日頃から発電量を確認していました。



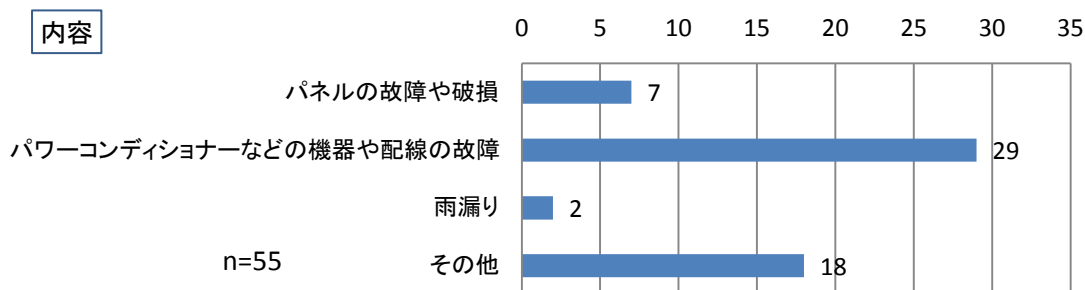
不具合やトラブルについて

【質問2】 発電設備について、これまでに不具合やトラブルがありましたら教えてください。(選択式、複数選択可)

1割の方が、発電設備に関する不具合やトラブルがあったと回答しました。

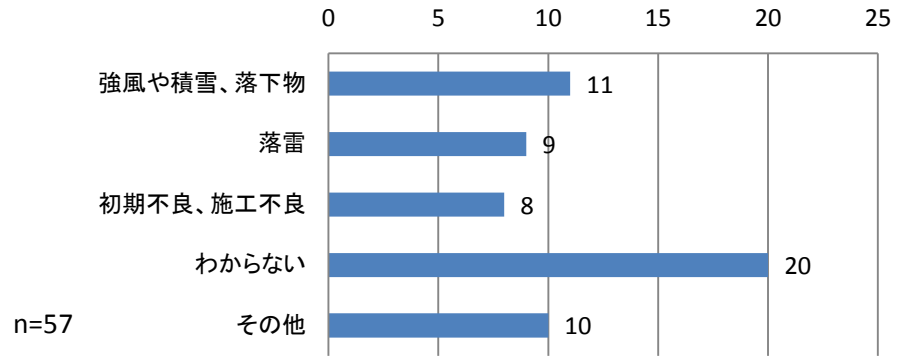
不具合等の内容は、「パワーコンディショナーなどの機器や配線の故障」が多く、原因については、強風や落雷、施工不良など様々でしたが、「わからない」と回答した方も多くいました。

発見のきっかけは、「発電量の低下に自分で気づいた」が最も多く、発電量の確認が不具合等の発見に繋がっていることが伺えました。



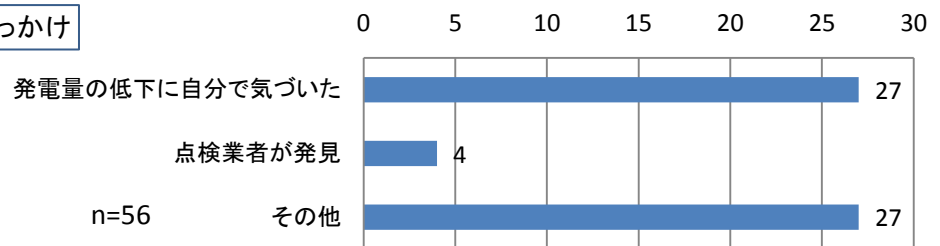
・その他は、「発電量の低下」「モニターの不具合」など

原因



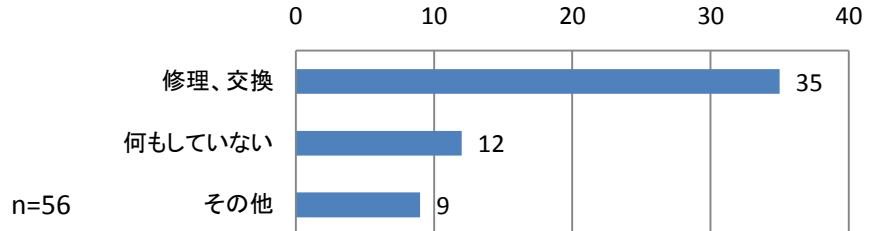
・その他は、「虫などが機器に侵入」など

発見のきっかけ



・その他は、「モニターのエラー表示」「大雨、強風などの後に異常を発見」など

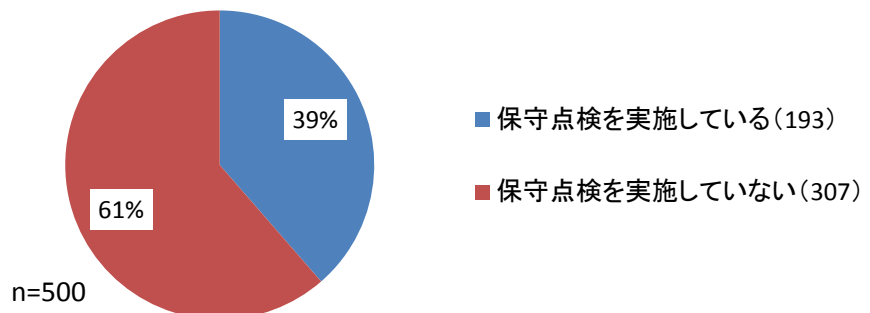
対処方法



・その他は、「機器の再起動」など

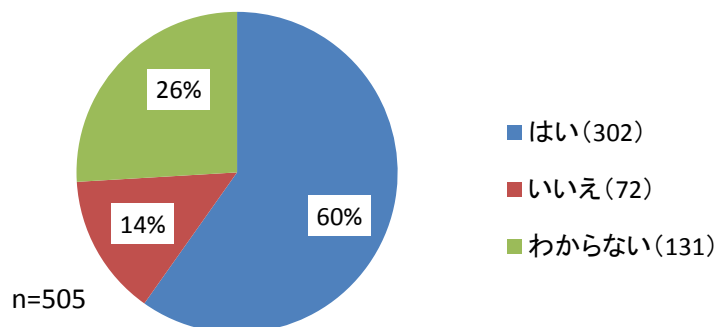
保守点検の実施について

保守点検を実施している方は4割に留まりました。



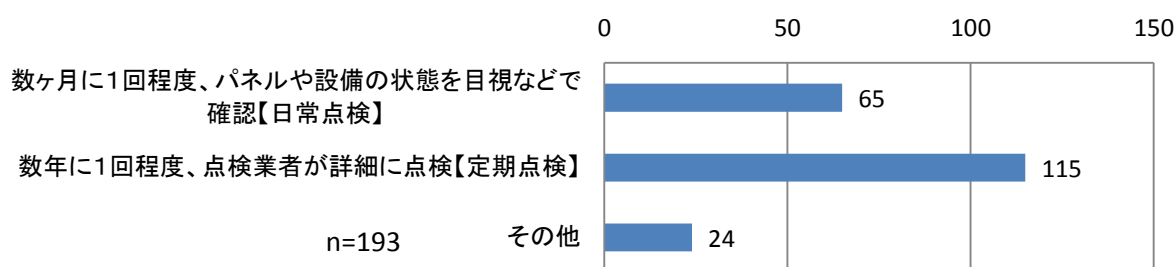
【質問3】 発電設備の保守点検について、必要性を感じていますか。(選択式)

6割の方が保守点検の必要性を感じていました。



【質問4】 保守点検を実施している場合は、その内容を教えてください。(選択式、複数選択可)

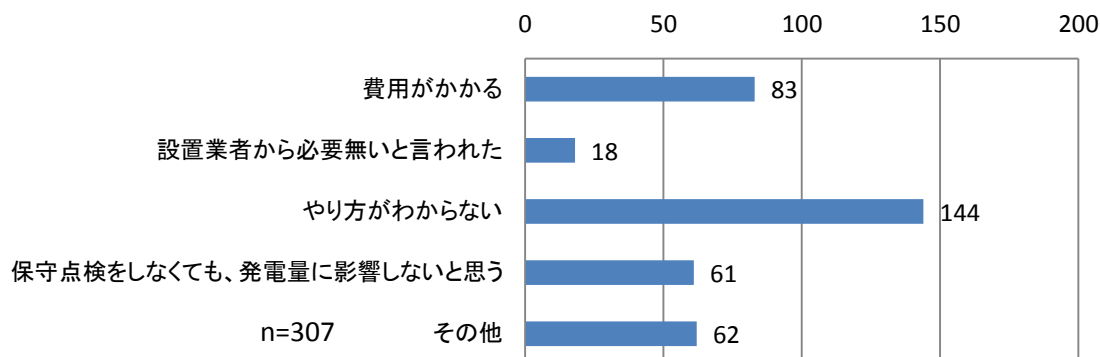
3割の方が日常点検、6割の方が定期点検を実施していました。



・その他は、「必要時に依頼」「設置業者が発電状況を確認」「資格があるため自ら機器を用いて点検」など

【質問5】 保守点検を実施していない場合は、その理由を教えてください。(選択式、複数選択可)

“やり方がわからない”が最も多い回答でした。

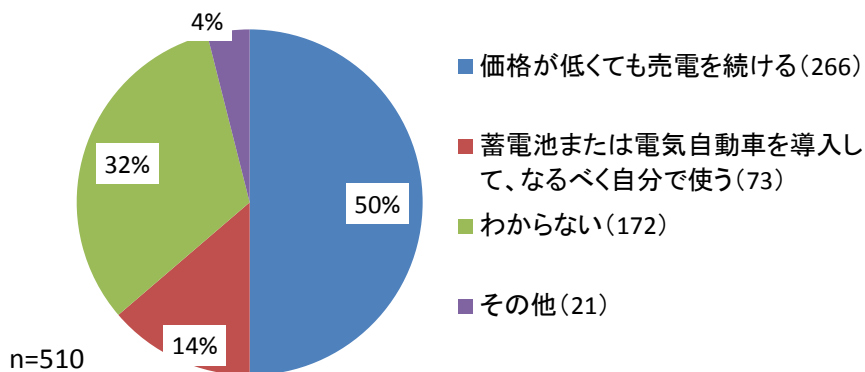


・その他は、「設置業者が倒産」「設置業者等から保守点検について何も聞いていない」など

固定価格買取制度について

【質問6】 売電期間(10年)を過ぎても、電力会社との合意で売電できますが、買取価格が低くなることが予想されます。売電期間終了後は、どうされる予定でしょうか。(選択式)

5割の方が“価格が低くても売電を続ける”と回答し、蓄電池や電気自動車を活用してなるべく自家消費をしようと考えている方もいました。



・その他は、「蓄電池の価格次第で今後検討する」など

【質問7】 制度の改正により、発電設備の保守点検が必要になったことをご存じでしょうか。(選択式)

“知っている”と回答した方は1割に留まりました。

